

平成24年度埼玉県共助社会づくり支援事業
 (市町村・NPO等協働モデル推進事業)
 概要説明シート

1 事業名	住まい・まちづくり分野の協働ネットワーク構築と人材育成、及び居住福祉推進事業
2 事業主体名	越谷市住まい・まちづくり協議会
3 事業概要 (課題、目指す効果等) ※なお、事業が複数ある場合は、それが分かるように記載してください。	<p>※ 事業の概要が分かるように、図などを用いて記載してください。</p> <p>地域における課題</p> <p>住民の景観や住環境の改善に関する意識が低い</p> <p>居住福祉の視点に立つ住宅整備、再生が遅れている</p> <p>自ら問題解決していける経営的市民を育成する必要がある</p> <p>越谷市住まい・まちづくり協議会 (住まい・まちづくりプラットフォーム)</p> <p>住まい・まちづくり大学の企画開催</p> <p>新・福祉住宅事業の調査研究</p> <p>広報宣伝活動</p> <p>講義を経て、ワークショップでは住まい・まちの課題を研究するグループワークを自主的に展開</p> <p>調査研究の過程で、文教大学のフィールドワークと連携が生まれ、地域フォーラム開催</p> <p>ニュースレター、HPの運営、市民活動支援センターの利用等で市民や他団体との情報交流</p> <p>「住まい・まちづくりシンポジウム」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まい・まちづくり大学の成果発表、修了生の組織化 ・事業成果の報告を内外へ発信 ・引き続きの活動とメンバー集めの広報 <p>目指す事業効果</p> <p>①住まい・まちづくりプラットフォームの整備 「越谷市住まい・まちづくり協議会」が設立し、既にある「越谷市建築協定フォーラム」を支援しつつ、景観まちづくりへと拡充することができる。</p> <p>②住まい・まちづくりの啓発と人材育成 「住まい・まちづくり市民大学」を開催し、人材の発掘、育成ができる。さらに、修了生を組織化してまちづくりの担い手として養成することができる。</p> <p>③住宅ストックを活用した新・福祉住宅の整備 公民学連携にて居住福祉の視点から空き家等の調査研究することにより、住宅ストックを活用した「新・福祉住宅」の整備ができる。</p>

<p>4 マルチステークホルダー（会議体）の実際の役割</p>	<p>※ 事業に参加した主なメンバーが実際に行った主なことをわかりやすく記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NPO 法人越谷市住まい・まちづくりセンター 事業進行の担当、事業プラン作成、広報、会計、及び事務局業務 ●越谷市都市整備部建築住宅課 行政資料の提供、埼玉県ヒアリング調査の調整、文教大学との連携支援 ●日本大学理工学部根上研究室 住まい・まちづくり大学の企画及び講師派遣、新・福祉住宅事業の調査協力 ●公益社団法人埼玉県宅地建物取引業協会越谷支部 空き室の多いアパートの情報提供、イベント等のポスター掲示とチラシ配布 ●社団法人埼玉県建築士事務所協会越谷中央支部 新・福祉住宅事業の調査・研究に会員派遣 ●社会福祉法人寛友会 高齢者住宅の運営アドバイス、ケアハウスの調査協力 																																	
<p>5 事務の流れ（実績等）</p>	<p>※ 事業内容を主な実績も含め時系列に記載してください。</p> <table border="1" data-bbox="429 819 1463 1671"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>住まい・まちづくり大学</th> <th>新・福祉住宅事業</th> <th>広報宣伝活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年8月</td> <td colspan="3">越谷市住まい・まちづくり協議会の設立・運営方法の検討、事業方針決定</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>実施要項の作成 生徒募集（広報こしがや掲載） 案内チラシの制作・配布 ポスターの制作・掲示</td> <td>情報収集・基礎調査 自治体（越谷市、埼玉県） 先進事例の視察、物件調査 アンケート用紙のポスティング</td> <td>ホームページを制作しアップロード</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>開校式 講義6回、ワークショップ2回</td> <td>訪問調査、空き家空き室相談会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td rowspan="2">シンポジウム準備</td> <td rowspan="2">豊島区、埼玉県、移住・住みかえ機構等へのヒアリング調査 ユーザーアンケート</td> <td rowspan="2">ニュースレター1号の発行</td> </tr> <tr> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>25年1月</td> <td></td> <td>改造計画、収支計画の作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>シンポジウム開催 反省会</td> <td>文教大学の地域フォーラムにて意見交換、提案書のまとめ</td> <td>リーフレット制作</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">事業の総括</td> </tr> </tbody> </table>	年月	住まい・まちづくり大学	新・福祉住宅事業	広報宣伝活動	24年8月	越谷市住まい・まちづくり協議会の設立・運営方法の検討、事業方針決定			9月	実施要項の作成 生徒募集（広報こしがや掲載） 案内チラシの制作・配布 ポスターの制作・掲示	情報収集・基礎調査 自治体（越谷市、埼玉県） 先進事例の視察、物件調査 アンケート用紙のポスティング	ホームページを制作しアップロード	10月	開校式 講義6回、ワークショップ2回	訪問調査、空き家空き室相談会		11月	シンポジウム準備	豊島区、埼玉県、移住・住みかえ機構等へのヒアリング調査 ユーザーアンケート	ニュースレター1号の発行	12月	25年1月		改造計画、収支計画の作成		2月	シンポジウム開催 反省会	文教大学の地域フォーラムにて意見交換、提案書のまとめ	リーフレット制作	事業の総括			
年月	住まい・まちづくり大学	新・福祉住宅事業	広報宣伝活動																															
24年8月	越谷市住まい・まちづくり協議会の設立・運営方法の検討、事業方針決定																																	
9月	実施要項の作成 生徒募集（広報こしがや掲載） 案内チラシの制作・配布 ポスターの制作・掲示	情報収集・基礎調査 自治体（越谷市、埼玉県） 先進事例の視察、物件調査 アンケート用紙のポスティング	ホームページを制作しアップロード																															
10月	開校式 講義6回、ワークショップ2回	訪問調査、空き家空き室相談会																																
11月	シンポジウム準備	豊島区、埼玉県、移住・住みかえ機構等へのヒアリング調査 ユーザーアンケート	ニュースレター1号の発行																															
12月																																		
25年1月		改造計画、収支計画の作成																																
2月	シンポジウム開催 反省会	文教大学の地域フォーラムにて意見交換、提案書のまとめ	リーフレット制作																															
事業の総括																																		
<p>6 得られた成果等</p>	<p>※ 工夫した点、課題点などを記載してください。</p> <p>○成果及び工夫した点</p> <p>1 住まい・まちづくりプラットフォームの構築 越谷市住まい・まちづくり協議会として設立できた。当初の6団体以外にも埼玉県、文教大学及びNPO団体等と公民学の連携が広がった。</p> <p>2 人材の発掘・育成 住まい・まちづくり大学の実施により、新たな人材が発掘でき、今後もOB会を組織して、住まい・まちづくりの担い手の養成が可能となった。 住まい・まちづくり大学の講師は日本大学の先生方をお願いした。途中3回の</p>																																	

	<p>履修状況アンケートを実施したこと、また講師の先生方が前後のよく連携をとってくださったことによって、一貫性あるカリキュラムで内容の充実したものになった。専門的な内容も含まれたが、すべての講師が映像を用意し、わかりやすい講義に努めたことと、受講生もそもそも意識の高い市民であり、ほとんどが「よく理解できた」という状態で各講座を進めることができた。</p> <p>また、ワークショップ形式の授業も採り入れたので、受講生が主体的に参加した。(延べ参加者数 189 名、修了証授与者 17 名) 修了生は住まい・まちづくりの担い手人材登録し、OB 会を組織する。(第 1 期 10 名)</p> <p>3 新たな住生活サービス事業の可能性</p> <p>新・福祉住宅事業は、協議会の専門部会「居住福祉部会」として実施した。当初は、住宅・建築分野のメンバーが主体であったが、文教大学の社会福祉士を目指す学生などが、コミュニティワークの一環として参加・協力することになり、福祉の視点からの調査も実施でき活動の幅が広がった。この調査・研究を通して、居住福祉の視点からの新たな住生活サービス事業の可能性が見えてきた。</p> <p>○課題点</p> <p>今年度は当会が設立したばかりなので、活動できるメンバーが限定されたが、もっと多くのメンバーの参加と能力を引き出す必要がある。今後は活動できる会員を増やしていくことと、定例会や部会で自由に事業提案や意見交換をするなど、多くのメンバーが活発な取り組みができる環境づくりが求められる。</p>
7 今後の展望	<p>※ 今後の展望や事業継続タイプについて記載してください。</p> <p>●継続的に住まい・まちづくり担い手の育成（寄付・ボランティア型）</p> <p>住まい・まちづくり大学を継続して、引き続き住まい・まちづくりの担い手を発掘、育成する。また、修了生の OB 会を組織し、住まい・まちづくりのサポーター、リーダー、派遣講師などとして地域で活躍できる人材を養成する。</p> <p>●空き家バンクの設置と相談会の開催（中間支援型）</p> <p>潜在化している空き家・空き室を活用するために、定期的な相談会を通し、個々のケースに対応した適切な提案を行い、住宅ストックの有効利用を図る。</p> <p>さらに埼玉県住まい安心支援ネットワークと連携して、空き家バンク（空き室、空き地も含む。）を設置し、住宅提供者と住宅確保要配慮者とのマッチングを図り、空き家等の利用を推進する。さらに、新・福祉住宅事業のビジネスモデルを研究し、関係団体に提案する。</p> <p>●景観まちづくりの推進（公共サービス型）</p> <p>来年度はいよいよ越谷市の景観計画と景観条例が制定されるので、専門部会を立ち上げ景観まちづくり活動を推進する。また、越谷市景観協議会の設立支援や景観整備機構の指定を目指す。</p>
事業継続に向け想定する事業タイプ（※）	<p>Ⓐ 寄付・ボランティア型 B 市場・コミュニティビジネス型 ㉟ 公共サービス型 ㊲ その他（中間支援型：市民活動の支援やコミュニティビジネスの起業家を育成する。）</p>

- ※
- A 寄付・ボランティア型…寄付者、ボランティアから継続的に支援を受けられる仕組み
 - B 市場・コミュニティビジネス型…市場において企業や他の NPO にはない、独自の価値を生み出すことで顧客を獲得する仕組み
 - C 公共サービス型…公的資金による事業により、独自の価値を生み出すことで企業や行政が対応しきれないニーズに対応する仕組み